

HuRP

ハーブ通信

2008年

9月号

(第28号)

<http://www.hurp.info>

Love & Peace in 渋谷

2008年9月15日

まだ夏の暑さが残った昼下がりの明治公園で、『Love & Peace in Shibuya』が催されました。このイベントは、渋谷区の渋谷青年9条の会の人たちが、「自分たちの街から平和のメッセージを発信しよう」と、渋谷に関わる青年を中心として始めたものです。

その内容も多彩で、つきたてのおもちや焼きそばの販売、フリーマーケット、広島・長崎の原爆写真展、折り鶴コーナー、各種平和県連のグッズ販売、青空健康相談などが出展されていました。



が配られました。さきほど紹介したコメディアン

ステージでは、フォークソング、津軽三味線、語り、のギター、コメディアンのワンクッションによるコントなど、いろいろなジャンルの方が参加されていました。

法学館憲法研究所によるクイズ大会では、憲法に関するクイズに答えていただいて、正解が多い方に商品

のワンクッションのボケの人が、トップ解答者の一人に入っていたのでビックリしました。

また、ステージの脇では、漫画家の山田玲司さんがライブペインティングを披露してい



ました。漫画を読んだことはあるのですが、一枚絵をその場で仕上げる姿が印象的でした。

記念公演『元日本軍「慰安婦」ロラ・マシンと出逢って』

そして、HuRP 会員でもある有馬理恵さんによる講演が始まりました。フィリピンに赴いて取材をし、そこで出逢った元従軍慰安婦のロラ・マシンが女性国際戦犯法廷で



訴える様子を再現した劇を披露してくださいました。今回は、本編のダイジェスト版を演じてくださいました。法廷で自身が受けた仕打ちをとうと

うと話し、

「全身を刺すトゲのようにうずきます」

「正義の実現をこれ以上怠らないでください」

「私はどんなことをされても人間です」

とロラさんが乗り移ったような迫真の演技で、かって日本がしていたことを私たちに伝えました。

そのあと、取材の様子を写真を交えながら説明してくれました。慰安婦として働かされた建物の跡地の石垣を当時を忘れないために残しておいたという写真は、現地の人々のつらい思いを考えさせられました。

お芝居の前の「一本の芝居が国家を動かす力になると信じて」という有馬さんの言葉には、自国だけでなく、世界に発信して世界の国家を動かそうという気持ちが込められていると思いました。



けっして規模は大きくないイベントですが、いろいろなジャンルの人がそれぞれに自身の言葉で平和を訴えるという試みは、これからも続けてほしいと感じました。(T本)

青年劇場公演「藪の中から龍之介」 観劇

2008年9月20日



会場の新宿・紀伊国屋ラパスホール

作：篠原久美子 上演台本・演出：原田一樹

皆さんは、芥川龍之介の作品でなにが一番好きですか？

わたしは、恥ずかしながら教科書以外の作品をともに読んだことがありません。「芋粥」「杜子春」「羅生門」「蜘蛛の糸」くらいでしょうか。

今回見に行った劇「藪の中から龍之介」は、1927年、35歳の若さで自殺した芥川龍之介（不勉強ながら、こんなに若かったとはビックリしました）の枕元に、彼の作品の主な登場人物たちが集まってく

る場面から始まります。

「死んでるよな？」 「死んでますね」

「死んでねえよな？」 「死んでませんね」

なぜ、自分たちの「創世主」である彼が自殺したのか？

おのおののキャラクターたちは、なぜ自分たちがここに呼ばれたのかを考え、その理由を見つけるために、芥川龍之介の人生を自分たちで再現してみます。

「ぼんやりとした不安」という言葉は、彼の遺書「或旧友へ送る手記」のなかの言葉です。

作者の生きた1920年代といえば、第一次世界大戦と第二次世界大戦のはざま、大正デモクラシーや世界恐慌、ロシア文学や幸徳秋水事件などを経て、先月ご紹介した「蟹工船」といったプロレタリア文学の登場など、激動の時代でした。

いわゆる厭世的といわれている彼の死の前ですが、貧しい人々の争議を描こうとして未完に終わったり、そこかしこで感じられる戦争の足音や朝鮮半島などでの日本の植民地支配や、一方でロシア革命の影響を受けた日本の社会主義・無政府主義運動に対する彼自身の「主」への問いかけが、を作品の中にさりげなく置かれており、ただ「ぼんやりとした不安」で自殺したのではないということも伝えたかったようです。

『或阿呆の一生』を読むと、この劇のおもしろさが増しますよ」とアドバイスを受け、さっそく購入しました。作者の遺作の一つで、もう一つの『雷車』からレインコートの男（おそらく作者自身）が劇で登場します。なるほど、終盤、自宅で繰り広げられる問答はこの作品のできるまでを描いたように見えました。

「もちろん、懐疑的なところ、自己肯定感がもてなかった部分もあると思います。だとしても、社会的弱者にたいする温かい目をいつももっていた。彼の生きた時代とその生きざまをとおして、現代を見つめなおすきっかけにしてもらえたらと思います」という脚本家の言葉は、「おかしいと思ったら『おか

しい』と表現することが大切なんだ、あなたたちは現在をどう思う？」という問いかけをしているようでした。

わたしがかつて読んだ作品はいわゆる児童向け作品で、人の業をテーマにした作品がほとんどでした。

今回の劇では様々なテーマで作品を描く作品のダイジェストともとれ、勉強になりました。

原作をもっと読んでいれば、もっともっと楽しめたでしょう。ただ、「この作品はそんなことを伝えたかったのではない」と、穿ってみてしまうかもしれません。原作を知らなくても楽しめる作品でした。（T本）

news;

新企画！『人権・平和のための語学教室（仮）』のお知らせ

さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化に触れて、何か一つ言葉を覚えて帰れば、それまでとちがった視点で物事を見ることができるかもしれません。

同時に、「人権や平和の尊重」のテーマは、世界共通の普遍的なものであるということを確認する機会になるのではないのでしょうか。

まだ、企画段階ですので、どういう形式になるかはわかりませんが、ご期待ください！



写真は3周年記念イベントでの「軍隊のない国々」

news;

『08年秋！憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』のお知らせ

HuRPの理事長で、法学館憲法研究所首席客員研究員の浦部法穂教授と、同じく理事の水島朝穂教授が講師を務める『08年秋！憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』をご紹介します。ふるってご参加ください。

戦後最大の曲がり角ともいえるこんにち、戦後社会に果たしてきた日本国憲法の役割について、憲法の基本的考え方から捉え直すことがいよいよ重要となっています。07年に憲法改正の手続法が制定され、憲法改正国民投票が将来実施されることも念頭に、憲法について本質的に考えてみます。

【日時・テーマ・講師】

第3回 11月15日(土)13時～17時

「雇用、福祉、生活のあり方と 日本国憲法」

講師：森 英樹氏（龍谷大学教授・法学館憲法
研究所客員研究員）

協賛：NPO法人「POSSE」

第4回 12月6日(土)13時～17時

「世界史の中での日本国憲法の 意義」

講師：浦部法穂氏（名古屋大学教授・法学館憲
法研究所主席客員研究員）

協賛：歴史教育者協議会

【会場】 伊藤塾高田馬場校（高田馬場駅早稲田
口から徒歩3分）

【入場料】 各回 1000 円（法学館憲法研究所賛助
会員・学生・伊藤塾塾生は 500 円）

<全4回通しで参加される方は 3000 円（法学館
憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は 1500
円）>

【主催・問合せ先】

法学館憲法研究所

電話 03-5489-2153 fax 03-3780-0130

E-mail info@jicl.jp

カラダに平和を 自炊のススメ

28 栗ご飯

気温が一気に下がって、いよいよ秋本番ですね。
栗といえば、「秋の味覚」で上位にくるもののひとつ
ではないでしょうか。先月に引き続き、会の方から
いただいた栗を使って、栗ご飯を作りました。

材料：栗、米、酒、みりん、しょうゆ

手順：

1. 栗にたっぷりの熱湯を注ぎ、湯が冷めるまでおい
て皮を柔らかくする。皮を包丁でむいて、30分くら
い水にさらしてあく抜きをする。
2. 炊飯器にといだ米と栗、水を入れ、みりん、しょうゆは小さじ一杯、酒を小さじ3杯入れる
4. 通常通りにお米を炊いて、15分くらい蒸らす。
5. お好みで黒ごま、ゆずの皮などを盛りつけてできあがり。

今回は、いわゆるむき栗ではなく、生の栗の皮むきに挑戦しました。マニュアル通りにやったつもりが、30分間栗と格闘しました。でも、そのかいあっておいしい栗ご飯ができました！また、一晩おいて冷めたものが香りが引き立ってよりおいしかったです。一度は皆さんもお試してください！



9月に入って、一気に気温が下がりました。皆さんは風邪などひかれていますか？わたしは寒さに備えて、毛布をクリーニングに出そうと思ったのですが、出している間は古いものを使わなければならない、結局2枚交互に出すことになりました。夏の内に準備しておくべきと、反省しきりでした。

(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーフ)
Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>